

平成30年度 学校評価 自己評価書

あま市立正則小学校

1 総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

「夢をもち 未来を切り拓く ーかしこく あたたくく たくましくー」

《めざす児童像》

かしこく …… よく見て よく聞いて よく考える子
あたたくく …… 思いやりのある素直な子
たくましく …… 体を鍛え ねばり強く取り組む子

児童のすぐれた個性を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに、公共の精神を尊び、自他の敬愛と協力により創造的で活力に満ちた社会の発展に尽くす態度を養う。

(2) 本年度の重点努力目標

ア 学習指導の充実

- ・ 算数に少人数指導やT T指導を取り入れて、個に応じた指導の充実を図る。
- ・ 生きる力や確かな学力を身に付けさせるために、コミュニケーション能力の育成や言語活動の充実を図る。
- ・ ユニバーサルデザインの授業を工夫する。
- ・ 対話的な学びを通じた問題解決的な学習や体験的な学習の充実を図る。
- ・ 家庭教育の手引きを作成し、家庭での学習習慣の確立を図る。
- ・ 新学習指導要領実施にともない、特別の教科道徳、英語科について校内現職教育を充実させる。

イ 豊かな心の醸成

- ・ 毎日のあいさつを大切にする。
- ・ 異年齢集団活動(すこやか活動)を教育活動に取り入れる。
- ・ 自己肯定感を高めるために、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを利用した指導を充実させるとともに、内面に根ざした道徳の指導に努める。
- ・ 歌声の響く学校にする。

ウ たくましい心身の育成

- ・ 体育授業の改善や休み時間の外遊びを通して、体力の向上に努める。
- ・ 食育指導や保健指導、保健集会などを通して、健康的な生活づくりに努める。

エ 教職員の健全なサービスの徹底

- ・ コンプライアンス面談を定期的に実施し、不祥事根絶の意識を高める。
- ・ 事務処理の簡素化、会議・行事等の精選を通じて、心身共に健康な状態で勤務できるよう業務改善を図る。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 平成30年12月3日～14日

(2) 調査項目 別紙アンケート質問紙参照

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

・ 児童	293名／	全295名	・ 保護者	264名／	全295名
・ 教職員	20名／	全20名	合計	577名／	全610名

3 調査結果

別紙 資料「学校評価のまとめ」・アンケート結果参照

4 考 察

(1) 学習面

教職員のアンケートでは、全体的にポイントが上がっている。特に、道徳の授業への取り組みでは、今年度から行った研修や研究授業により、職員の意識にかなりの向上が見られる。

また、設問「児童一人一人を大切にしたい授業の展開」は特に高く、教職員が学習指導に高い意識をもって取り組んだことが分かる。学力をつけるために必要な「家庭での学習習慣の定着」や「プロジェクトMASANORI」への取り組みを含めた「キャリア教育」等、児童とその環境を見据えた学習指導が行われている。

児童のアンケートでは、「話をきちんと聞く」「チャイムがなったら席に着く」といった学習規律への意識の高まりが特に顕著であった。この学習規律の高まりが保護者アンケートでの設問A「学習に向かう態度が身についている」に反映されているものと推測される。

一方、家庭学習においては教員も「学習習慣の定着の工夫」でポイントを下げ、児童も「家で毎日同じような時間に勉強する」では、やや落ち込みを示している。また、保護者アンケート「家庭で決まった時間に勉強をしている」のポイントもやや下降していることから、早急にこの点に留意して指導に当たる必要がある。

(2) 生活面

教職員アンケートでは多くの設問で昨年度よりもわずかに増え、平均ポイントが3.6以上（満点＝4ポイント）を示し、教職員の生徒指導への高い意識を示している。また、児童・保護者ともに、「毎日楽しく生活している」の項目で高いポイントを示し、心穏やかな生活できていることをうかがわせる。ただし、児童の「学校で休み時間に本をよく読みます」では、昨年、一昨年と大きくポイントを減らしている。保護者の「子どもは家で読書をよくする。」も同様に、朝読の復活や図書室の整備がまだ十分に効果を上げていないことが分かった。学校で本に触れさせる時間を意図的に確保するだけでなく、親子読書など家庭への呼びかけも行う必要がある。読書の大切さや本に親しむ楽しさを実感できる取り組みを拡充させたい。

5 成果と課題

- (1) 今年度から、「たがいのよさを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成」をテーマとして特別の教科道徳の現職教育に取り組んでいる。教材活用の技術を高め、道徳価値に迫る授業展開を工夫して、「考え、議論する道徳」の実戦に向けて研修している。また、心の教育の一環として、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを利用して、互いを認め合い、自己肯定感の高揚を目指している。これまでに培った話し合い活動の素地を生かしつつ、教材の課題を自分ごととして捉えて解決していく中で、それぞれの見方感じ方の違いを認め、自分なりの考えを深めるという手立ては、「道徳の授業が好き」と答える児童が増えたことから、有効であったと考えられる。しかし、まだ研究の端緒であり、年間カリキュラムや評価法については今後の課題である。職員はアンケートで、「カリキュラムに沿っていなかった」と感じており、次年度の中心課題となっている。
- (2) いじめ問題や学校不適応問題への対処として、年2回の児童へのアンケート調査に加えて、学級担任との面談時間を設けている。このことが、教師にとっては児童の心情理解につながり、また児童にとっては学校生活上の安心につながっている。
- (3) 基礎学力をつけるために、少人数指導や T. T. 指導を行った。漢字の読み書きや計算等できめ細かな指導をすることができて成果があった。また、「漢字・計算ウィーク」を設け、基礎的な内容のミニドリルを行い、全員合格を目指して意欲的に取り組ませることができた。

一方、文章構成を考えたり事実や感想・意見を書いたりする表現力や必要な情報を集めながら読み取る力、四則混合計算の正確さや数量の関係を式に表したり数量を表やグラフで表したりし

て説明し考察する力を伸ばすことが課題である。

- (4) 体力づくりは、以前からの課題であり、25分の休み時間を設けて外遊びを奨励したり、学年を縦割りにした「すこやか班」の活動で縄跳び大会等を企画したりしてきたが、今のところ成果にはつながっていない。今後も、好き嫌いのない食べ方や運動習慣、睡眠等、適切な生活習慣の大切さを各家庭に呼びかけ、体力の増進を図っていきたい。
- (5) 学校運営協議会委員からは、「落ち着いた態度で生活できている」「授業公開への親の出席が多く、熱心に関心も高い」「地域と密接につながり、地域で育てる形を継続してほしい」「福島正則の研究・調査（プロジェクトMA SANORI）を今後も継続してほしい」との意見をいただいている。今年度から始まったコミュニティスクールの一環で、これまでの活動に加えて、植栽の剪定作業や持久走大会の交通整理、6年生の「狂言発表」に向けての衣装協力など、ひとつひとつ実践を積み上げることができた。

6 改善策

(1) 学習面

- ・ 学習規律に関する高い意識を教師も児童も継続できるように、日々の取り組みを進める。
- ・ よりわかりやすい授業を行うために、授業のユニバーサルデザイン化を図る。
- ・ 児童の表現する機会や発信する機会を増やすために、ノートに自分の考えを書いて説明する活動やペア学習、グループ学習を重視する。
- ・ 発言を認め合う中で達成感や自己肯定感を感じさせるように、授業を構成する。また、より学習内容を定着させるために、振り返りの時間を意図的に確保する。
- ・ 道徳や外国語の授業について研修を行い、自信をもって指導できるように努める。
- ・ 配布した家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の習慣化を意識して課題を出すように心がける。
- ・ 学校の図書室の利用機会を意図的に設定する。家庭にも「家読」の習慣化を呼びかける。

(2) 生活面

- ・ 体育の授業で意識的に児童の体力強化に努める。また、児童会活動やすこやか班など、学校生活の中で継続的に体を動かす習慣づくりをする。
- ・ 食育指導や心の健康教育、健康相談等を通して、心身ともに健康的な生活づくりを支援していく。
- ・ 年2回行っている教育相談（児童・担任で行う二者懇談）の他にも、相談の機会を随時設けていく。特定の児童については、教師が意図的に居場所づくりをし、注意して見守り、関係職員で常に状況を伝え合う。
- ・ 児童のコミュニケーションスキルを高めるために、道徳や学級活動でソーシャルスキルトレーニングを今後も継続して行う。

(3) その他

- ・ 新指導要領の実施、働き方改革に伴い、学校行事の精選や実施時期についての見直しを図る。
- ・ 外国語活動の時間数増加や道徳の教科化等、現職教育や特色ある学校づくり事業等、今後の教育の変化について教職員間の共通理解を図る。
- ・ 備品の整理整頓を心がけ、施設設備の充実や大規模改修について、長期的な展望をもつ。